

学校番号	学校名	校長名
72	川崎市立 鷺沼小学校	小林美代

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ◆よく考え工夫する子ども（考える子） ◆思いやりがあり美しさを求める子ども（やさしい子） ◆めあてをもってやりぬく子ども（やりぬく子） ◆すすんで体をきたえる子ども（たくましい子） 	<p>「認め合い高め合い成長していく学校」 ～一人一人が輝き みんなでつくる 鷺沼小学校～</p> <p>・認め合う集団づくり ・学び合う学習づくり ・安心できる学校づくり ・開かれた学校づくり</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 集団づくり 認め合う	① 自分たちの力で学校生活をよりよくしていくために、発達段階に応じた主体的な取組を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級目標を常に振り返ることができるように教室と校長室に掲示をした。 ・当番活動や係活動、各委員会活動では、活動を工夫し意欲的な姿が見られた。 ・運営委員児童が、放課後遊びのルール決めや地域教育会議の報告などを積極的に取り組んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの目指す姿を明確にする点に、学級目標は今後も大切にしたい。 ・「やりたい」と思うことを声に出したり実行したりできるように、場づくりや周囲の環境を整えていく。 ・朝会をはじめ様々な場面で子どもたちの活動を認め励ますようにし、自信をもって取り組んでいけるようにする。
	② 集会活動や異学年交流などを充実させ、自他の活躍を認めあう集団を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発想を大切にしながら集会活動や異学年交流を実施した。主に1年と6年が多かったが、生活科や総合的な学習とも関連させた交流を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や学年で行った集会活動を交流の目的に合っていたかしっかりと振り返り、互いを認め合集団を子どもたちが意識できるようにしたい。
	③ 委員会活動やクラブ活動を創意工夫し、見通しをもってやり遂げる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会が主体的に取り組む、集会やイベントなどを通して活動する姿が見られた。委員会朝会では、各委員会の取組を積極的に紹介し、学校全体で共有していた。 ・学校運営協議会でも自分たちの活動を報告した。 ・5年児童によるクラブ活動立ち上げでは、次期最高学年の5年生が意欲的に活動していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の様々な場面で創意工夫できる場を意図的に設定していく。「やってみたい」と思ったことは計画を立て、実行に移すことの大切さと粘り強くやり遂げることの大切さを様々な場で学んでいく。 ・クラブ立ち上げについては、児童や教師の負担感を考えながら継続できる方法を探る。
	④ キャリア在り方生き方教育の充実を図り、一人一人が自己有用感を高めるとともに夢や希望をもって生きる力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートやキャリアノートの活用法を、全校で確認しながら取り組んだ。自分の成長を様々な場面で確認し、さらなる目標をもって学校生活を送ろうとする児童が増えてきた。 ・市政100周年の取組として各委員会で「かわさき」「さぎぬま」に関する取組を行い、校内に伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や道徳などの指導計画を他教科との関連を図りながら見直し、実行するとともに自己有用観の高まりに向けて学年で話し合いをしながら取り組む。 ・川崎市制100周年の取組を生かしながら、キャリア在り方生き方教育の充実を図る。
2 学習づくり 学び合う	① 生活科・総合的な学習の時間をはじめ、カリキュラムマネジメントの観点から年間指導計画を見直し学習環境の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に全ての教科の年間指導計画、評価計画を立て、実施しながら学年で適宜修正を入れている。特に総合は、どんな探究課題が良いのか学年で考えながら進めていた。 ・各担当が中心となり、教材の開発、保存、教具の工夫などをするとともに、教室の環境整備に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科、総合的な学習、道徳や特別活動などと教科の学びを一体的に見直し、実態に応じた指導計画を、資質能力の育成の観点からも見直ししていく。 ・次年度は教科書も改訂されるため、再度見直しを図る。
	② 各教科における思考力・判断力・表現力・発表力の向上と、言語活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究のテーマ、「のびのびと伝えること」「あたたかく受け止めること」の重要性を意識した言語活動の充実を図った。 ・集会などでも原稿を読むのではなく自分の言葉で語れるように指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の授業で、子どもの想いをつなげる授業展開を充実させたり協働的な学びを意識したり、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図る。
	③ 自らの課題を解決していく学びを継続し、学び合う楽しさを実感できるような授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決的な学習を様々な場で実践することで、学び合う楽しさを実感できる児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自身が自分の授業を振り返り、課題を明確にして日々の授業に向かうようにする。
	④ 生活総合の研究推進校として校内研究を充実させ授業力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の授業研究会では全ての学級が授業を公開することにより、互いの授業を見合う機会を設けることができた。 ・地区研究会で、2学年の授業を全市に公開し、高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究はめざす子どもの姿を意識して実施する。職員同士で授業を見合う機会を増やすことで研鑽をつみ、授業力向上を図る。
	① 人権尊重教育や共生・共育プログラムを通して、違いを認め合い他者を尊重する心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・共生・共育プログラムや特別活動を通して、互いを認め合う、望ましい集団作りに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も周りの人も大切にすることの重要性を、特別活動、共生・共育プログラムをはじめ、全教育課程を通じて指導していく。 ・様々な立場の人を理解できるよう、道徳教育、家庭とも関連させながら心の教育を取り組んでいく。
	② 児童理解・児童指導、支援教育等の充実と情報共有に努め、インクルーシブ教育の構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会では、共通理解シートを活用しながら学年全体で児童理解を図った。支援教育Co.を中心に、学校全体で情報を共有し、相談しやすい環境を整えてきた。 ・学年に応じて専科教諭や交換授業を取り入れ、複数の職員が学習指導にあたることで学年で児童理解を深めていくようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任同士、個別級と交流級同士など、職員間での情報交換・共有を徹底させることで、指導の充実を図る。 ・学年全体で学年児童に関わっていくために、学年間の授業交換や児童理解をさらに推進する。

3	安心できる学校づくり	③ 望ましい学習態度、学習規律や習慣を形成し、社会的自立に必要な力を育成する。	・鷺沼小スタンダードやルールブックで確認しながら、学年会等で情報交換し、共通理解して指導を行った。 ・キャリア在り方生き方教育とも関連させ、身についた習慣や望ましい態度を、自ら確認しながら自己修正していく	・実態に合った鷺沼小スタンダードになっているか検証を続けるとともに、子どもたち自身がルールを考えていく場を今後も継続して設けていく。
		④ いじめ・不登校の未然防止や全教職員での声かけに努め、安心して過ごせる居場所づくりを行う。	・鷺沼小学校いじめ防止基本方針に則り、支援教育コーディネーターを中心に、学校体制を確立し居場所づくりに努めた。必要に応じて教育相談センターなど外部機関とも連携した。 ・SOSの出し方教育など、困ったことがあるときは声をあげることの重要性を指導してきた。	・学級、学年、CO、との連携など、あらゆる機会を通じていじめ防止、早期発見に努める。 ・担任以外の話せる職員をより増やししながら、子どものSOSに気付けるよう、研修を充実させる。
		⑤ 子どもや保護者が話しやすいように心がけ、全教職員で連携して、教育相談体制の充実を図る。	・教育相談日を保護者に周知し、迅速に教育相談を行った。担任、学年、支援教育コーディネーターに相談する体制が整ってきている。 ・学校巡回カウンセラーは、保護者や児童からも信頼され、良い取り組みとなっている。	・朝のあいさつや健康チェックなどを通じて全職員で児童へ声をかけ、話しやすい雰囲気を作る。アンケートなどを通じ小さな変化を見逃さないようにしていく。 ・教育相談日や支援教育Co.の役割について、今後も積極的に広報していく。
4	学校開かれた学校づくり	① 地域の人・こと・ものに関心をもち、家庭や地域と連携した学びを充実させる。	・生活科・総合的な学習を中心に各学年の児童の思いを活かしながら、地域と関わる学習を計画し、進めてきた。	・地域素材を生かしたり地域を知ることで、「鷺沼」「川崎市」への愛着を深め、100周年に向け町を大切にしたい思いを育んでいく。
		② 安心・安全な学校生活を送れるように、地域と連携しながら防災・防犯、緊急対応等の体制を整える。	・安心・安全協議会で防災・防犯についての情報共有を図った。 ・地域の避難所開設訓練、防災訓練に職員が参加し、学校と地域が連記を図ることができた。 ・通学路点検を、PTAや行政、地域の人たちと行い、危険箇所を確認し保護者に情報共有をしている。	・開かれた学校部会を中心に、職員全員が防災・防犯意識を高めていく。 ・開かれた学校の意義を再確認し、地域の中で地域の方と共に教育していけるよう体制を検討する。
		③ 保護者・地域の方から教育ボランティアやゲストティーチャーを募り、教育活動を充実させる。	・図書ボランティアの方々には、図書室運営や読み聞かせ活動を積極的に行っていた。読み聞かせは4年生まで枠を広げた。 ・PTAの子どもサポート委員会協力をいただき様々な教科で学習ボランティアとして参加していただくことができた。	・計画的なボランティアの要請と一方的なお願にならないよう、ボランティアと職員との連携を深めたい。
		④ 学校運営協議会の推進と充実を図るよにも学校評価を充実させ、学校改善に生かす。	・学校評価委員会を中心に、学校評価を充実させるよう努めた。 ・学校運営協議会の位置づけを明確にし、取組を報告し、委員から意見をいただいた。	・各部会のキャップを中心に反省に基づいて次年度の計画を立て、全職員がPDCAサイクルを意識して、校内の体制を再構築していくようにする。地域の方と「顔が見える関係」を築けるよう、地域と積極的に関わるよう意識を高める。
		⑤ 教育活動の公開、学校ホームページ、各種便りの内容の充実にも努め、積極的に情報の発信を行う。	・授業参観や運動会など、多くの保護者に学習の様子を公開した。学年ごとに工夫をして保護者参加の学習や参観も計画した。 ・学校HPを活用して今後も日常の様子を発信していきたい。	・社会情勢を踏まえた行事や学習参観の在り方を検討し、よりよい公開の仕方を検討する。 ・日常の学校の様子を、HPなどを活用してさらに発信していく。
		⑥ 小中連携教育推進協議会や幼保小連携の取組を推進する。	・有馬中学校区小中連携教育に全職員が参加した。2月に園児を招いて幼保小の連携の集会を行う。	・小中連携、幼保小連携、中学校区や近隣の学校との連携を今後も継続すると同時に、GIGA端末を活用するなど連携の方法も検討する。
5	GIGA部会	① GIGAスクール構想に基づき端末を活用した学習の充実を図る。	・学習や委員会活動など、様々な場で使用するようになった。各教科、委員会活動などでより効果的な使い方を模索している。	・2年生以上の学年は、様々な場ですでに活用している、教員が研修を重ねながら効果的に使っていきたい。 ・1年生のGIGA開きの計画を早めに立て、年間を通して指導ができるようにしていく。
		② 安全に利用するための情報リテラシー教育と本校でのルールを明確にする。	・安全に利用するための本校のルールを明確にし、学年に応じた指導を行った。全学年で情報モラルなど、使い方の指導も深めてきた。 ・持ち帰りに関しては、保護者からの要望もあるが、他の持ち物との兼ね合いを考え負担が少なくなるよう計画的に持ち帰るようにしている。	・端末を利用しながら、自然とルールの理解ができるように、様々な場で指導の充実を図る。 ・持ち帰りのルールについて、保護者とも共有しながら理解を深めてもらうようにする。
		③ 機器の適正な管理とGSLや全市の情報を職員に伝達する。	・GSLを中心に、端末や周辺機器の管理を徹底した。 ・学習中でのよい活用法などを紹介し、効果的な使い方を広めていった。	・安全な使い方、機器の管理の徹底を図る。 ・GIGA支援員さんと連携を図るとともに、他校の実践例を紹介したり研修を実施したりしながら、さらに効果的な使い方を学んでいく。

学校関係者の評価		学校運営のまとめ	
<p>・学校運営方針については、理解できる。これからも子どもたちの成長のために頑張っていきたい。</p> <p>・委員会活動の子どもたちの報告が素晴らしかった。挨拶運動などやってきた内容も素晴らしいが、子どもたちが自分の意見をしっかりと伝えたり、活動してきたことを端末を使いながらわかりやすく話す姿は素晴らしい。</p> <p>・保護者同士のつながりが持てるような機会があるとよい。保護者と教師が気軽に話せるような雰囲気もみんなで作ってほしい。</p> <p>・学校評価の結果からは、子どものアンケート結果と保護者の結果の相違があるように感じる。子どもの頑張りなどを学校側や子どもたちと共有するためには、保護者として、学校で起きた出来事、学校の様子をもっと知っておく必要があると思った。</p> <p>・劇の発表会、「鷺沼まつり」など、授業参観以外でも、子どもたちが学んでいる姿を学年ごとに公開してくれたのが良かった。次年度も続けてほしい。</p>		<p>・Will1からWill4とGIGA部会の取組については、それぞれの部会で振り返りをしながら次年度に生かしていきたい。</p> <p>・学校アンケートからは「自分から学級・学年・学校の活動に取り組んでいる」に対し「そう思わない」と回答している児童もいる。自己肯定感を高めながら様々な活動に参画できるような態度を育てていく必要がある。</p> <p>・友達と意見交流をすることの良さや価値観を理解できていない児童も一定数いる。交流することでよりよい考えを導くことができることに気付けるよう、日常の授業改善を図ってほしい。</p> <p>・担任の先生以外にも話せる大人の人がいないと感じている児童も一定数いる。子どもも保護者もさらに安心できる教育相談体制、支援体制、居場所づくりを構築していきたい。</p> <p>・緊急時の対応について家族と共有できていないと感じている児童もいる。防災訓練の様子など学校で行う防災教育の様子を家庭にも発信をしていき、学校と共有していく必要がある。</p> <p>・GIGA端末をどこでどのように使うのかなど、効果的に活用法や個別最適な学び、協働的な学びに向けて、職員も研鑽を積んでいくことが大切であると感じた。</p>	